

2025年4月期第2四半期決算説明会

株式会社スリー・ディー・マトリックス(証券コード:7777)
2024年12月

エグゼクティブサマリー

- ◆ 累計売上は32.7億円、前年同期比で78%増、予算達成率121%
- ◆ 売上の増加に伴い、営業利益は約▲5.3億円、前年同期比で約6.8億円(56%)の改善
四半期単独では赤字幅は▲2.2億円まで減少
- ◆ 米国子会社は当期累積期間で黒字に転換

<前年同期比> (単位:百万円)

	第2四半期単独			第2四半期累計		
	(前期) 第2四半期	(当期) 第2四半期	前年同期比	(前期)第2四半期 累計期間	(当期)第2四半期 累計期間	前年同期比
売上高	1,009	1,788	+77.2%	1,836	3,274	+78.3%
営業利益	▲568	▲215	+62.1%	▲1,214	▲531	+56.2%

2025年4月期第2四半期の業績： 目次

1. 財務状況

2. 開発状況

3. ご参考：会社紹介

2025年4月期第2四半期の業績： 目次

1. 財務状況

2. 開発状況

3. ご参考：会社紹介

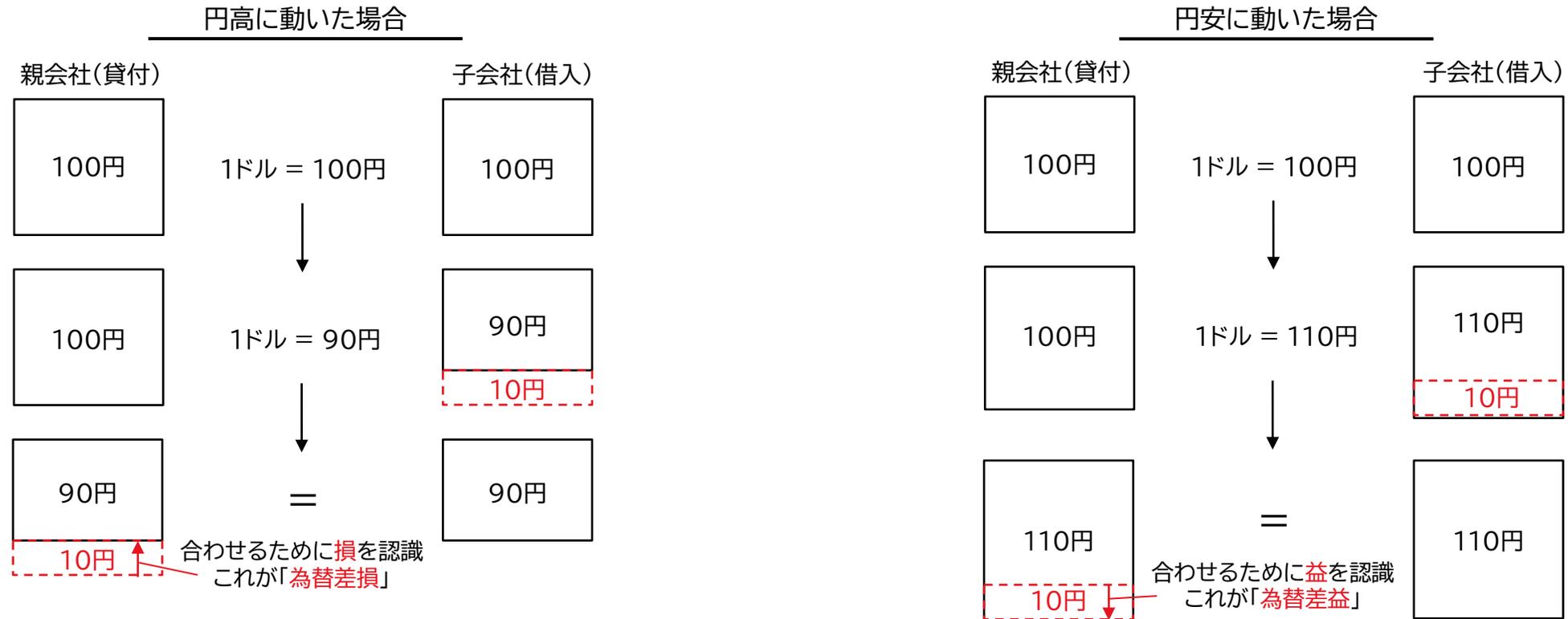
損益計算書の概要

事業収益は前期比約1.8倍、粗利が約1.9倍に拡大し、営業利益を約7億円改善。
円高の影響による為替差損の計上で経常利益は一時的に赤字。

(単位:百万円)	2025/4月期 Q2	2024/4月期 Q2	増減
事業収益	3,274	1,836	+1,438
売上原価	960	621	+339
粗利益	2,314	1,215	1,099
粗利率	71%	66%	+5%
研究開発費	289	276	+13
販管費	2,557	2,153	+404
営業利益	△531	△1,214	+683
経常利益	△797	41	△838
当期純利益	△805	△139	△666

為替差損益が発生する仕組み

子会社に対し外貨建てで貸付をしているため、為替レートの変動に応じて貸付金の金額が変動する。
変動した金額を為替差損益として認識している。



財務諸表上の損益であり、事業上のコストの増加やキャッシュアウトが発生するわけではない

(参考)為替差損益を除いた経常利益・純利益の比較

為替差損益を除いて比較すると、経常利益は前期から6億円以上、純利益は8億円以上が改善した。

(単位:百万円)	(1) 財務会計数値		(2) (1)から為替差損益を控除した数値	
	経常利益	純利益	経常利益	純利益
(当期)第2四半期 累計期間	▲797	▲805	▲611	▲619
(前期)第2四半期 累計期間	41	▲139	▲1,250	▲1,430

貸借対照表の概要

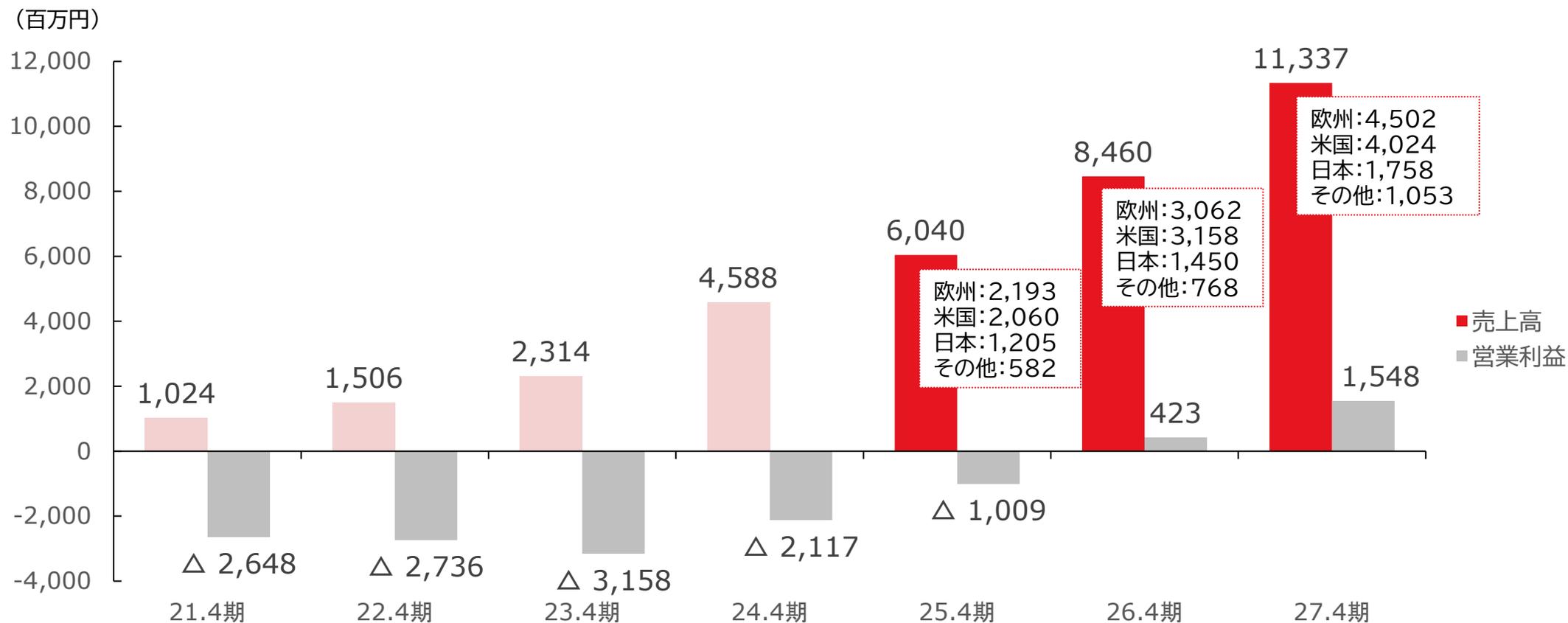
売上増に伴い売掛金が増加。転換社債の一部償還により潜在株式数は減少。純資産は約12億円の増加。

(単位:百万円)	2025/4月期 Q2	2024/4月期 Q2	増減
流動資産	6,609	6,315	+294
現金及び預金	2,068	2,011	+57
売掛金	1,413	872	+541
たな卸資産	2,918	2,990	△72
その他	210	442	△232
固定資産	94	111	△17
資産合計	6,703	6,426	+277
流動負債	1,273	1,807	△534
借入金	300	300	0
その他	941	1,507	△566
固定負債(転換社債等)	3,555	4,015	△460
負債合計	4,896	5,822	△926
純資産	1,807	603	+1,204
負債・純資産合計	6,703	6,426	+277

(再掲)年度実績推移と3か年の計画と目標

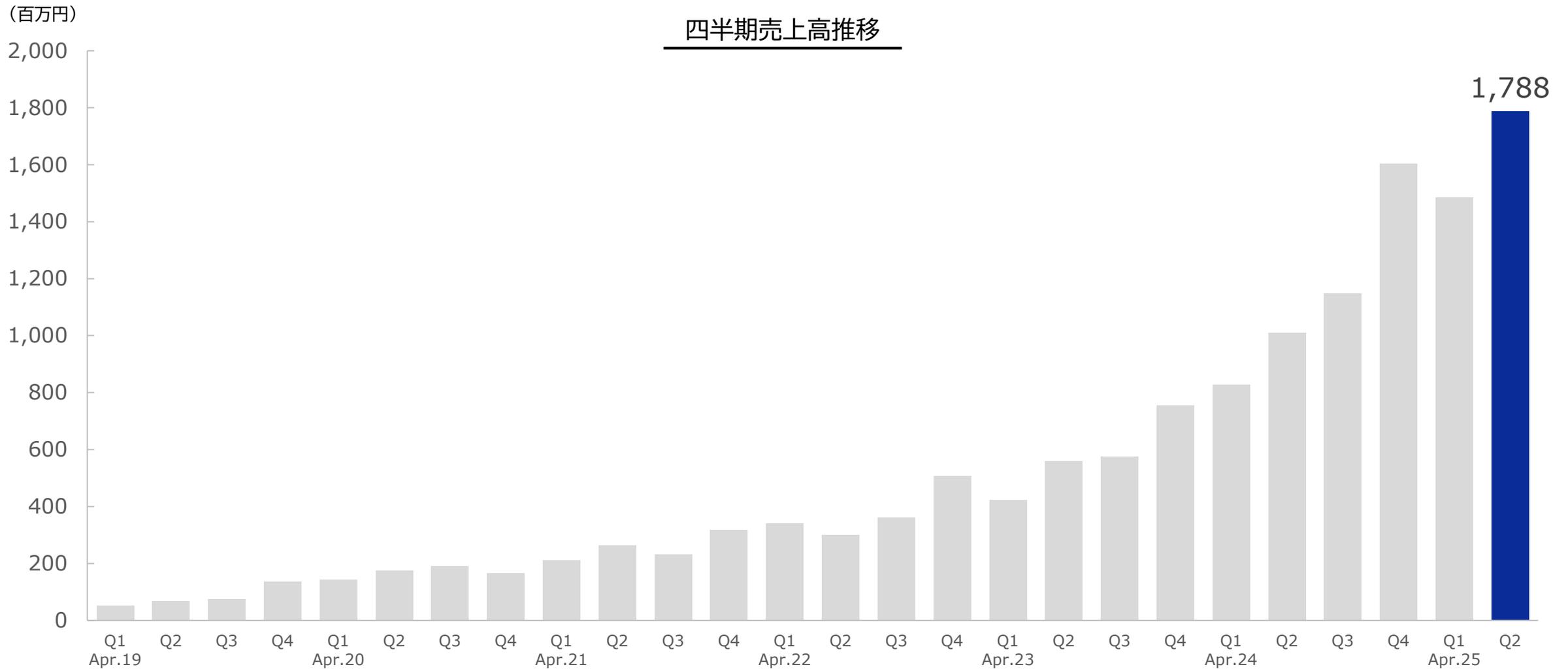
消化器内視鏡(GI)領域に集中することで売上計画の確度を高め、営業利益を每期改善させていくことで、来期の黒字化を狙う。

売上高と営業利益の実績推移と計画



四半期売上実績推移

高い成長を継続し、過去最高の四半期売上を記録。

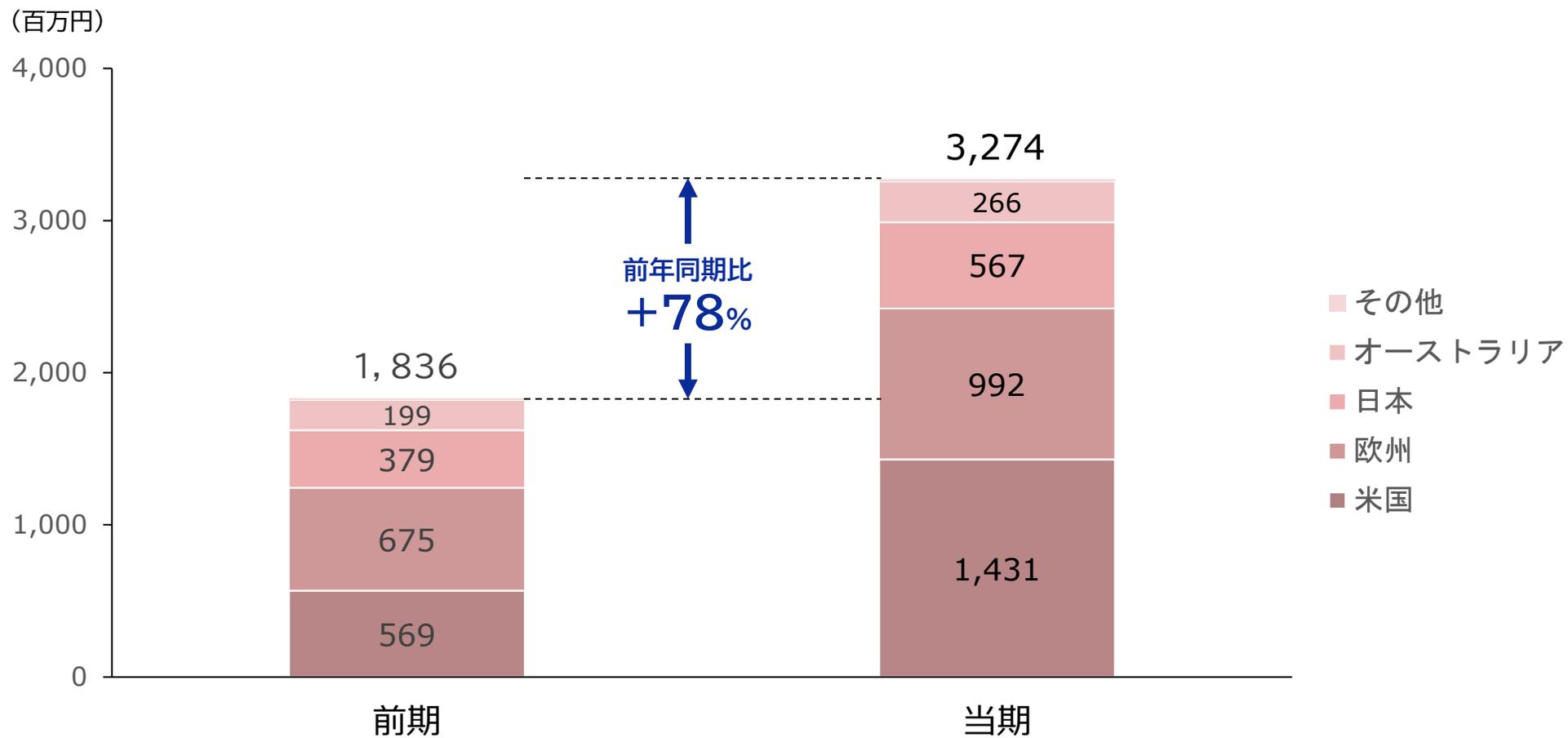


3-D Matrix, Ltd

This information is confidential and was prepared by 3-D Matrix, solely for the use of our partners; it is not to be relied on by any 3rd party without 3-D Matrix's prior written consent.

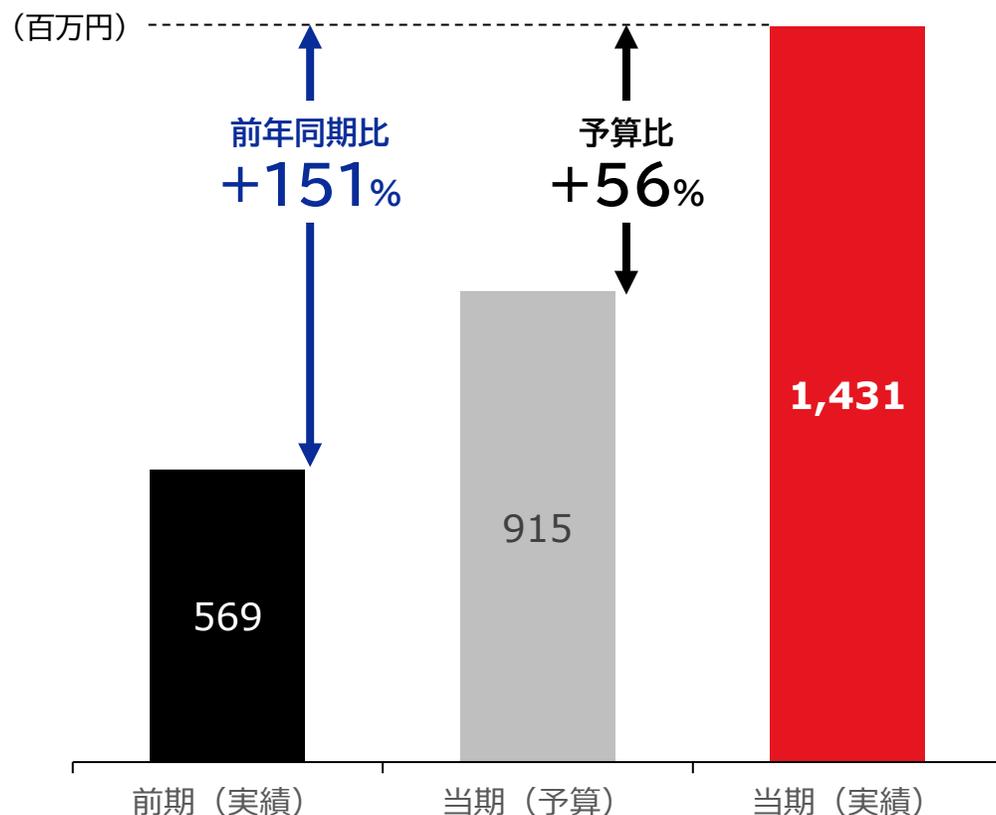
売上高 前年同期比

特に米国での高成長が貢献し、対前年同期売上は78%増となった。



販売活動の進捗: 米国

消化器内視鏡領域(GI)が想定を上回るペースで成長、計画を大幅に上回る成果。



消化器内視鏡領域(GI)

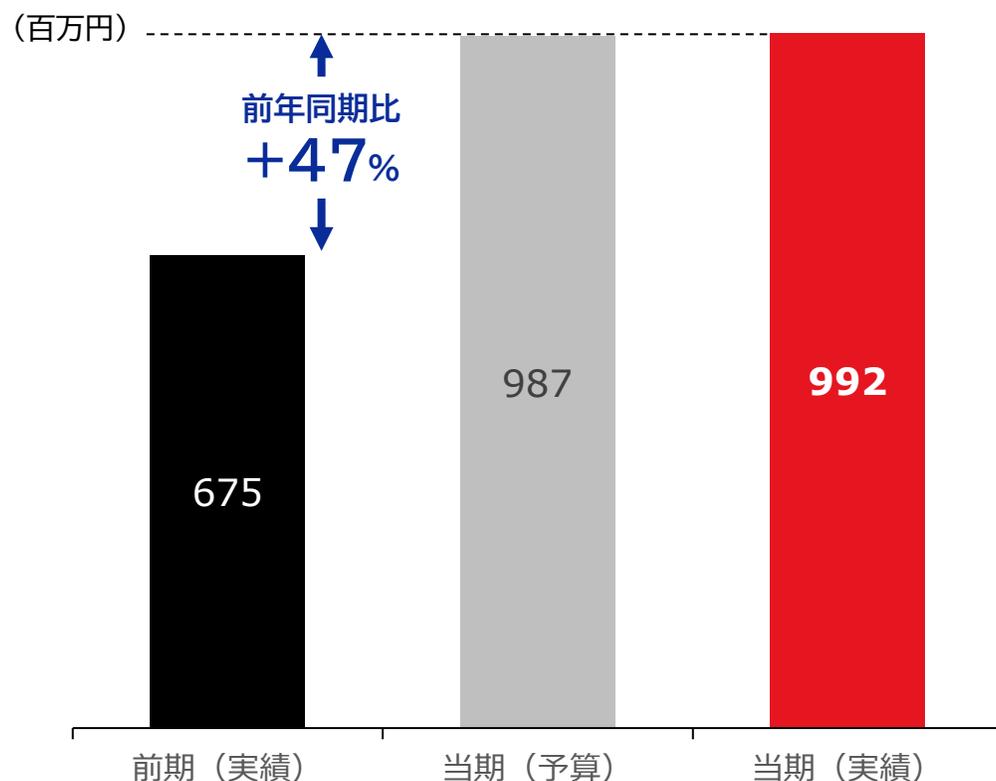
- 販売活動強化のために営業人員を拡大する施策も功を奏し、コストの増加分以上に売上の成長が進捗し、貢献利益も拡大
- 西海岸地域へのエリア拡大も順調に進捗
- 財務会計上、黒字へ転換

耳鼻咽喉科領域(ENT)

- 未だ売上の規模は小さいものの、米国を代表するアカウントが顧客となっており、人員数も少ないことから貢献利益は黒字を維持

販売活動の進捗：ヨーロッパ

施策が奏功したイギリスを中心にGI市場で販売が進捗し、前年同期比47%で成長。



消化器内視鏡領域(GI)

- 英国で成功した既存施設の深耕策がドイツで実現できるかどうかは今後の課題

心臓血管外科領域

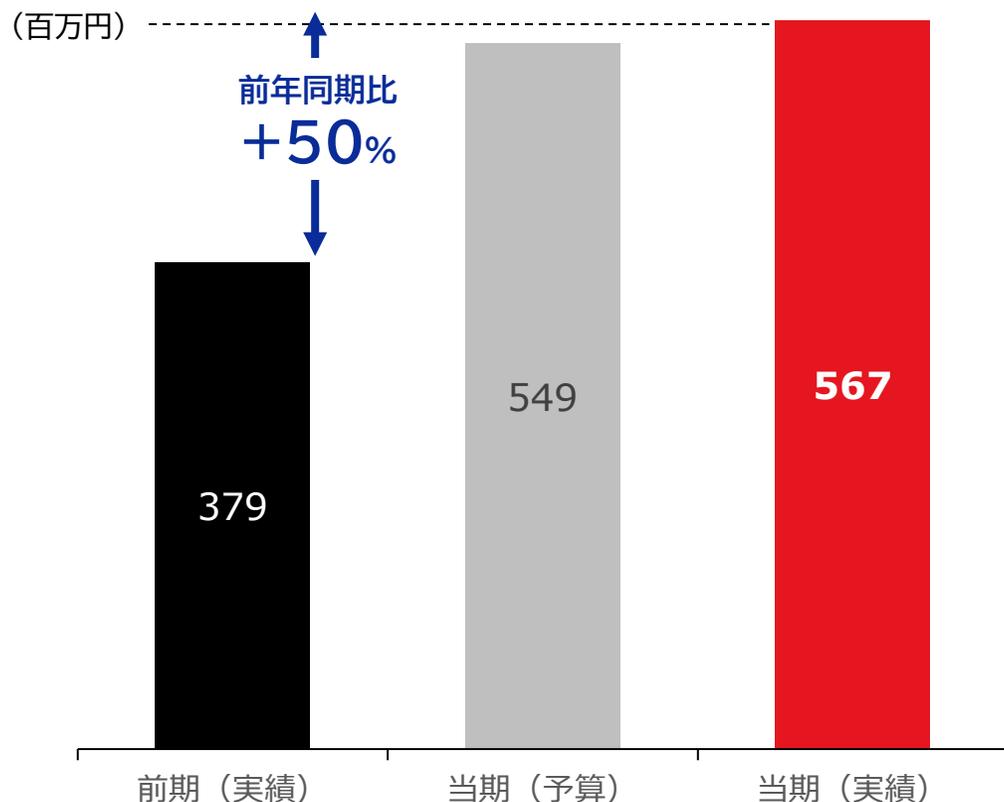
- 欧州最大規模の病院も順次開拓したものの計画未達となり貢献利益の黒字化が見通せない
- 直販を中止し代理店販売に回帰することでコスト削減を優先させる

耳鼻咽喉科領域(ENT)

- Q1に生じた遅れが影響し計画は未達なものの、順調に成長

販売活動の進捗：日本

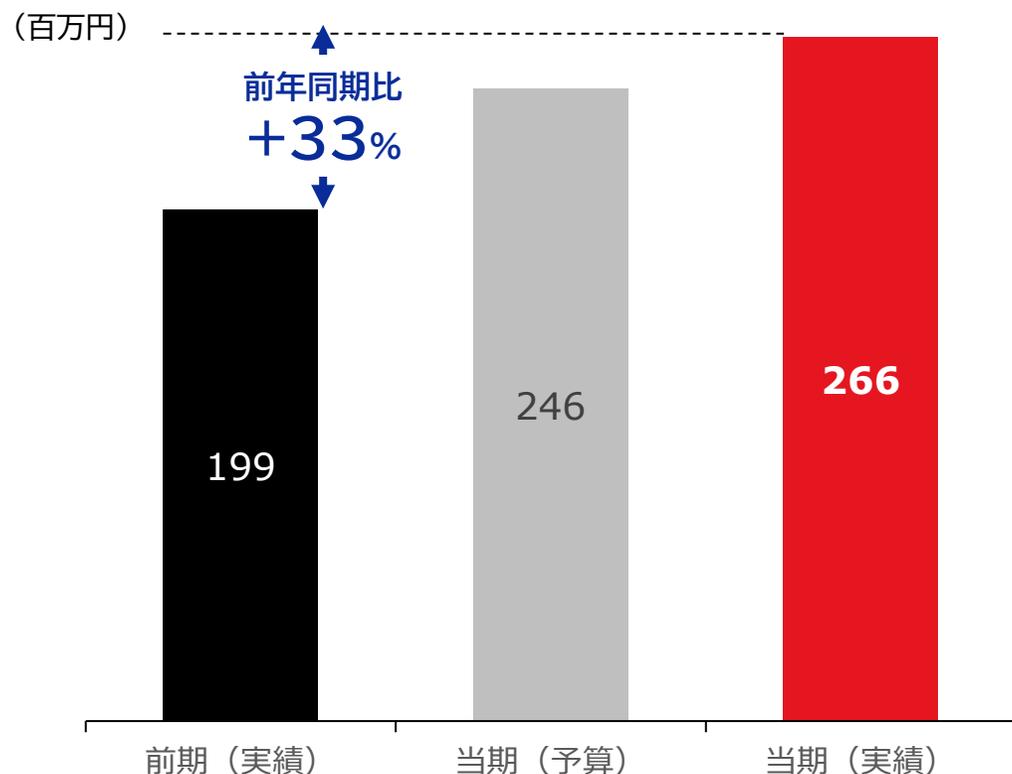
継続して高い成長率を維持しており、貢献利益の黒字拡大を達成。



- 販売活動が計画どおり進捗し、貢献利益の拡大を継続して達成
- 新規顧客獲得に加え、既存顧客の製品使用量を増やす施策に引き続き注力することで、貢献利益の更なる拡大を図る

販売活動の進捗:オーストラリア

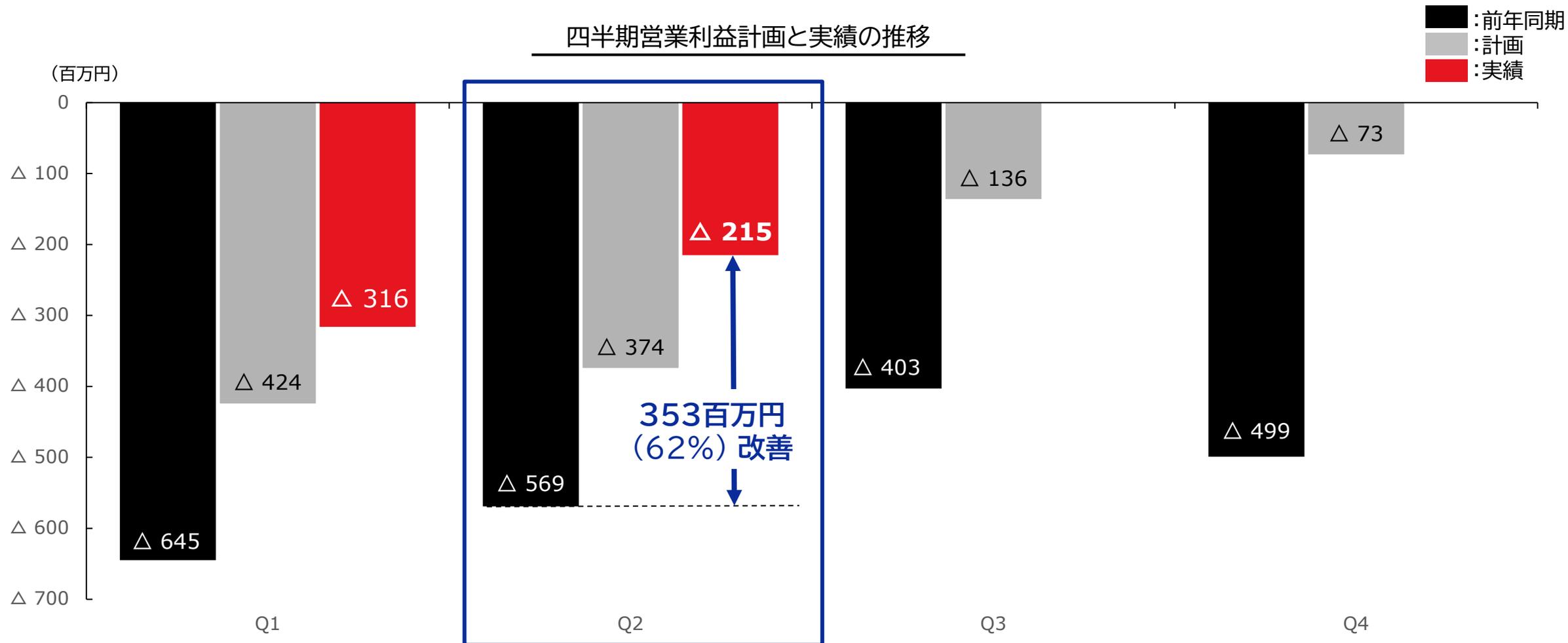
売上高および販売数量は前年同期を上回る実績。



- 政府による民間保険価格の見直しが2024年7月に終結
- 価格が未確定だったことによる買い控えが発生していたが、徐々に通常購買へシフト
- 既存顧客を中心とした営業活動により、過去最高の販売本数を達成し、前年同期を上回る製品販売額を確保

四半期営業利益

売上の増加に伴い、四半期営業利益は▲2.2億円まで赤字を削減。
前年同期比で3.5億円(62%)の改善、対計画で1.6億円の改善。



住商ファーマインターナショナル株式会社様との業務提携

2024年11月1日に住商ファーマインターナショナル(SPI)様との業務提携を発表。

- 外科用止血材製品に関し、原材料のグローバル調達および製品の物流を当社がSPI に委託し、SPI がその支援を行うもので、サプライチェーンがより強固なものになると考えられる
- 医薬関連分野において当社及びSPIそれぞれの得意分野における情報交換を行うことで、製品供給体制を含む事業体制の強化を図ることができると期待
- SPIが当社へ設定する与信枠を利用することで、当社は、現状より長期の支払サイトを適用することが可能に。これにより、当社の資金繰りが改善されることが期待

2025年4月期第1四半期の業績： 目次

1. 財務状況

2. 開発状況

3. ご参考：会社紹介

直近で追加された／現在アクティブなプロジェクト

プロジェクト	ニーズと特徴	状況
小児の心臓手術の止血	小児向けには承認を受けている安全な止血材がない。ピュアスタットは第一候補となりうる。狭い領域でも視野が確保され、塗布しても腫れあがらず、癒着が抑えられることが臨床ニーズ。	欧州で承認申請準備中
頭部・頸部の止血	ピュアスタットで止血した症例において、術後ドレーンからの廃液が減少し早期の抜管、早期の退院が可能。病院において大幅なコスト削減となりうる。	欧州において販売中 米国承認申請準備中
オスラー病(HHT)の止血(鼻)	全身の血管に異常が生じ、出血や動静脈奇形などの症状を引き起こす遺伝性疾患で約8割は繰り返す鼻血をきたす。現在焼灼以外に止める方法がないが、ピュアスタットを用いれば在宅医療ができる可能性	欧州で学会にてポスター発表済、欧州で臨床研究をもう一つ準備中
生検後の止血	経内視鏡の生検鉗子による組織採取では肺等部位によって出血した場合有効な止血手立てがなく十分なサンプルの取得が困難。ピュアスタットはこれら止血困難な部位にて使用可能であり十分量のサンプル取得を可能とする。	適応拡大検討中
前立腺肥大手術の止血	ロボット手術で肥大部を削る際に出るウー징の経尿道カテーテルによる止血。焼灼を減らすことにより術後に男性生殖機能を低下させることを防げる。	欧州で販売中 手術ロボット企業とテストマーケティング開始予定
脳外科における止血	経鼻の内視鏡による脳手術において、焼灼以外で使える唯一の止血材となる可能性。当社が独自に開発した新規ペプチドを用いる。	2024年4月に欧州で承認申請済み

直近で追加された／現在アクティブなプロジェクト

プロジェクト	ニーズと特徴	状況
放射線直腸炎の治癒	放射線治療の副作用。難治性の潰瘍と出血。現在は治療法がないアンメットの状態。ピュアスタットを塗布することで潰瘍の治癒が観察されている。	欧州の内視鏡学会で論文発表学会がガイドラインにピュアスタットを追加、保険収載を目指し欧州で臨床研究開始
放射線膀胱炎の治癒	放射線治療の副作用。難治性の潰瘍と出血。現在は治療法がないアンメットの状態。ピュアスタットを塗布することで潰瘍の治癒が観察されている。	ケースレポートが欧州泌尿器学会で発表予定
炎症性腸疾患の粘膜の治癒	消化管の難治性炎症。原因不明で、一度発症すると再燃と寛解を繰り返し、生涯治療が必要となる特定疾患。現在多数の抗炎症剤が用いられているが、粘膜を治癒することで治療効果があがる可能性。ピュアスタットで粘膜の治癒を目指す。	群馬大学で症例リクルート中 札幌医大で症例リクルート中
放射線治療用吸収性組織スペーサ	前立腺がんや子宮がんの放射線治療の際に、直腸へのダメージを減少させることを目的として、直腸と前立腺や子宮の臓器間に経皮的に注入される。当社ペプチドの生体分解性と高い生体適合性がニーズにマッチすると考えられる。特に子宮がんで注入可能なスペーサは国内未承認であり、早期の開発が待たれている状況。	日本で動物実験準備中
食道狭窄予防	予防方法の確立していないESD後食道狭窄に対して、内視鏡的塗布による、防止効果を実証。後出血や癒痕化による創傷治癒の遅延も抑制。	欧州の動物実験で有効性確認 広島大学で臨床研究開始
心筋機能低下の回復(再生)	注入型の心筋機能回復デバイスとしての開発を目指し、当社ペプチドにより心筋再生の足場環境を構築するとともに、幹細胞および成長因子タンパク質との混合注入による心筋再生の促進を確認した。	米国ハーバード大学で論文準備中

直近で追加された／現在アクティブなプロジェクト

プロジェクト	ニーズと特徴	状況
骨充填材(再生)	患者本人以外の生物由来物質を使用しない、安全性が高く低侵襲で大型の骨欠損にも対応した注入型骨再生材料としての開発を目指す。ピュアスタットを骨再生の足場材料とし、患者本人の体液由来の成長因子を保持させることで低侵襲かつ注入可能な骨再生充填剤としての開発を目指す。歯槽骨再建にとどまらず、腫瘍切除後の骨欠損などの大型な骨欠損への再生材料を目指す。	歯槽骨再生における米国パイロット治験結果をもとに、国内大学と大型の骨再生に向けた共同研究実施中
乳がんを対象としたsiRNAのデリバリー	がんの悪玉とされる「がん幹細胞」を抑制するsiRNAを、当社ペプチドでドラッグデリバリーすることで、腫瘍縮小だけでなく乳がんの再発や転移抑制にも寄与することも期待して開発中。国内治験において、ヒトへの安全性と腫瘍抑制メカニズム発揮を確認。	国立がん研究センター中央病院で医師主導治験P1終了
悪性胸膜中皮腫を対象としたmiRNAのデリバリー	アスベスト(石綿)に暴露された後、数十年の潜伏期間を経て発症するがん。症例数は向こう10年間増え続けるとされている。発症後は薬剤療法に決め手がなく、非常に侵襲性の高い外科手術をしても予後が悪い。マイクロRNA(miRNA)を、画期的新薬として当社ペプチドでドラッグデリバリーして治療する。	導出先のPURMX社によるグローバルPhase 1/2治験準備中(2025年開始予定)
ワクチンのデリバリー	当社ペプチドと抗原(タンパク質あるいはmRNA)を複合した徐放作用をもつワクチンで、抗体価の上昇、単回投与での抗体獲得、炎症抑制に基づく副作用の低減をめざす。さらに、内包した抗原の安定性を高め、室温保存可能なワクチンとして輸送、貯蔵でのコールドチェーンを不要にできることも期待。	米国Tulane大学 北海道大学と共同研究中

研究開発方針

欧州では止血材からの適応拡大を目指し、
米国と日本では欧州データを用いて適応拡大を目指す。

止血材から適応拡大

(欧州)

- 小児の心臓手術の止血
- オスラー病(HTT)の止血
- 放射線直腸炎の治癒
- 放射線膀胱炎の治癒
- 食道狭窄予防

欧州データで適応拡大

(米国・日本)

- 脳外科における止血
- 頭部・頸部の止血
- 前立腺肥大手技の止血
- 生検後の止血

エグゼクティブサマリー

- ◆ 累計売上は32.7億円、前年同期比で78%増、予算達成率121%
特に米国消化器内視鏡領域が全体の成長をけん引
- ◆ 売上の増加に伴い、営業利益は約▲5.3億円、前年同期比で約6.8億円(56%)の改善

<前年同期比> (単位:百万円)

	第2四半期単独			第2四半期累計		
	(前期) 第2四半期	(当期) 第2四半期	前年同期比	(前期)第2四半期 累計期間	(当期)第2四半期 累計期間	前年同期比
売上高	1,009	1,788	+77.2%	1,836	3,274	+78.3%
営業利益	▲568	▲215	+62.1%	▲1,214	▲531	+56.2%

2025年4月期第2四半期の業績： 目次

1. 財務状況

2. 開発状況

3. ご参考：会社紹介

MIT発ベンチャー企業

コア技術である「自己組織化ペプチド技術」は、マサチューセッツ工科大学(MIT)の研究者により、1990年代に発明された。当社の前身となる3-D Matrix(米国法人)はMITとMITの研究者が2001年に創業。

■ 会社名

株式会社スリー・ディー・マトリックス

■ 設立

2004年5月

■ 上場取引所

東証グロース市場(証券コード:7777)

■ 事業内容

自己組織化ペプチドをプラットフォームとしたグローバルな医療機器の開発、製造、販売

■ 代表取締役社長

岡田 淳

■ 事業所

日本・アメリカ・イギリス・フランス・オランダ・オーストラリア・シンガポール・中国・香港



- Shuguang Zhang (*Head, Molecular Architecture Group, MIT*)
- Alexander Rich (*Professor, Biophysics, MIT and Harvard Medical School*)
- Robert S. Langer (*Professor, Chemical Engineering, MIT*)
- etc.

「自己組織化ペプチド」の技術優位性

自己組織化ペプチドは、人工製品と生物由来製品の良さをあわせ持つ医療用途に適したバイオマテリアル。

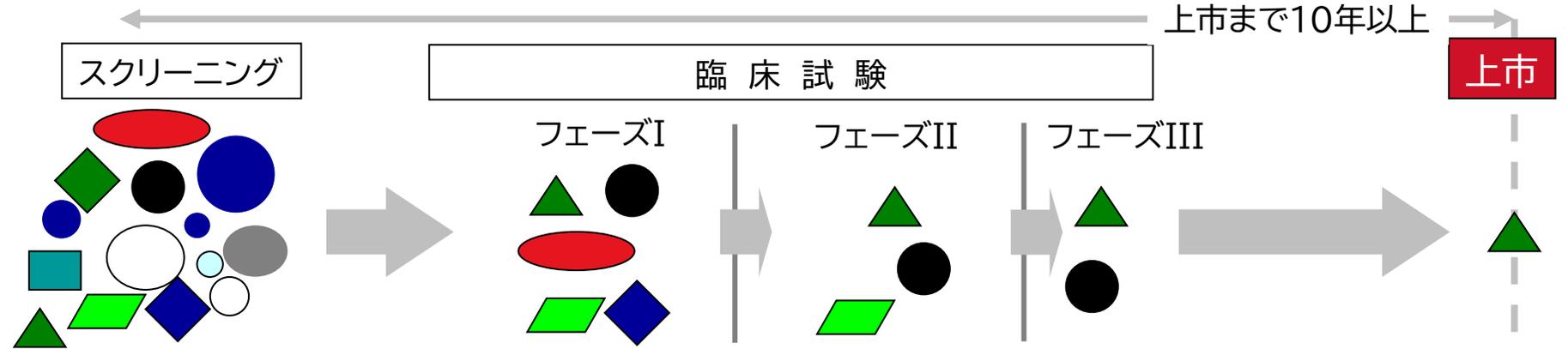
項目		人工製品	自己組織化ペプチド	生物由来製品
安全性 (感染リスク)	狂牛病などのウイルスを含まない。	○	○	×
生体適合性	人体になじみ、炎症などを起こさない。	×	○	○
生分解性	いずれ分解され、体外に排出され、体内に残らない。	×	○	○
拡張性	用途に応じて、様々なバリエーションが作れる。	○	○	×
品質の安定性	同じ品質で、大量に作れる。ばらつきによる不具合が起きない。	○	○	×
例		ポリマー、セラミック、アパタイトなど		フィブリン、コラーゲン、ヒアルロン酸など

自社開発製品のため、収益を可能な限り確保するモデル

医薬品の開発: 臨床試験も長く、上市まで時間・コストがかかる。1つ1つ物質が違いため応用が効かない。

一般モデル

- ・ ライセンスアウトが必須
- ・ 収益の大部分が外部に流出

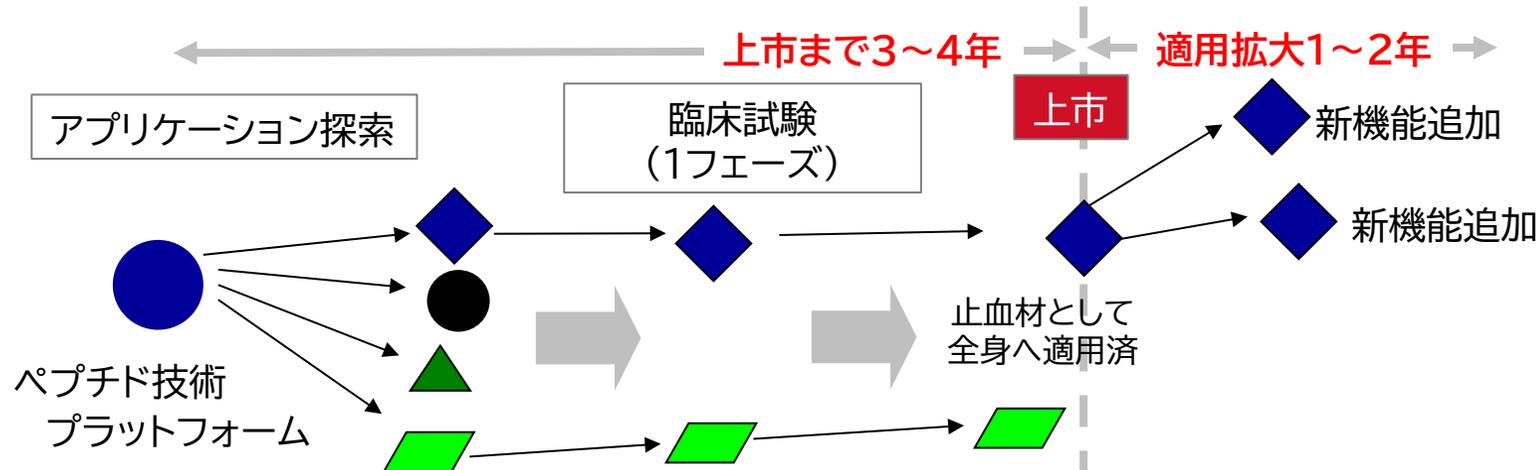


医療機器としての開発: 上市までの開発コストが小さく、さらに適用拡大によりニーズの高い用途を継続追加。



当社モデル

- ・ 自社で上市まで可能
- ・ 既に全身で使われているため適用拡大が容易
- ・ 収益のアップサイドが全て当社に残る



製品のグローバル展開

すでに日、米、欧の三極で上市製品を有し、開発リスクは小さい。
先行地域の成功事例をほか地域に適用し、市場リスクを最小化。



■ 欧州およびCEマーク適用国
・止血材: 上市済み
・後出血予防材: 上市済み

■ 日本
・止血材: 上市済み
・粘膜隆起材: 上市済み

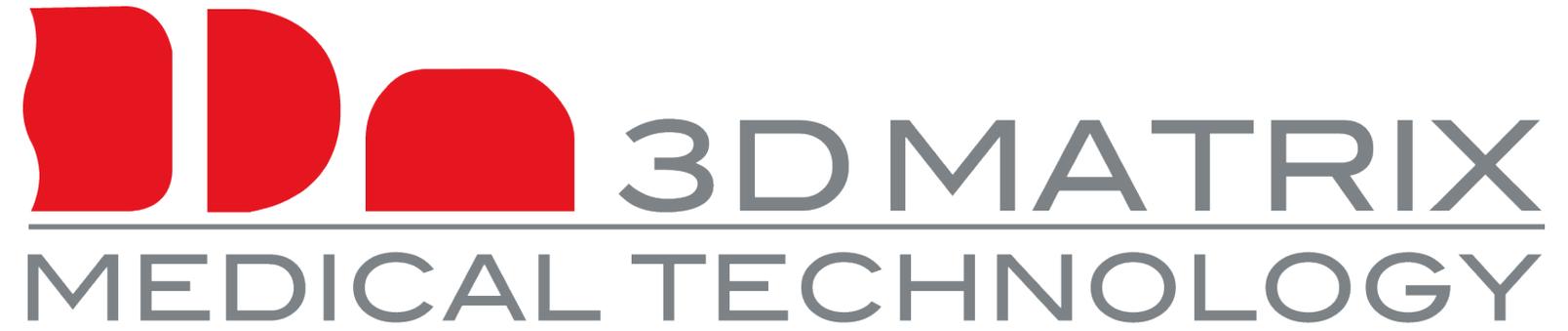
■ 米国
・癒着防止材(鼻): 上市済み
・止血材: 上市済み
・後出血予防材: 上市済み
・創傷治癒材: 上市済み

本資料の取り扱いについて

本資料は、株式会社スリー・ディー・マトリックス(以下、当社という)をご理解いただくために作成されたものであり、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。

本資料は当社の事業及び業界動向についての当社による現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しています。これらの将来の展望に関する表明は様々なリスクや不確かさが内在しております。既に知られたもしくは今だに知られていないリスク、不確かさその他の要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。当社は将来の展望に対する表明及び予想が正しいと約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なるか、更に悪いことも有り得ます。

本資料における将来の展望に関する表明は、本資料の作成時点において当社が入手し得る情報を踏まえたものであり、法令または取引所規則により開示義務を負う場合を除き、将来の出来事や状況を反映して将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。



ご清聴ありがとうございました